トステム株式会社　リビング建材　ウッディーライン（木造用）室内ドア　プライベート仕様　取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

⚠注　意…取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

⚠注　意

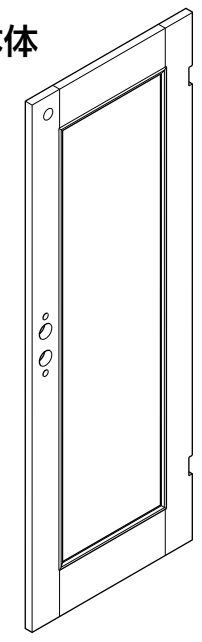
●本体を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。
●建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。

■取付け上のお願い

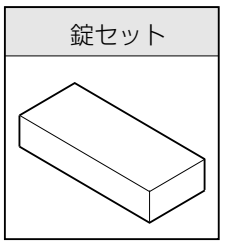
●標準・トイレドア　プライベート仕様は、一般住宅用の居室用防音ドアです。カラオケボックスなどの業務用、玄関などの室外、浴室などへのご使用はおやめください。
●必ず、同梱の埋込沓刷りを使用してください。薄沓ずりの使用はできません。（縦枠長さがありません。）また、沓ずりなし納めにされると防音性能が低下しますのでおすすめできません。
●枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。調整機構付丁番・ストライクの可動範囲を超える枠の倒れ、ゆがみ、ねじれなどが発生した場合、開閉不具合の発生および防音性能の低下の原因となります。
●造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
●建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくって納めてください。
●縦枠と柱、間柱とのすき間は枠固定金具を調整して柱にあてて内装ボードを必ず縦枠につきあててください。つきあてができない場合はかい木を入れてください。
●上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
●かい木には、合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
●造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。止むを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
●丁番は指定のねじで締付けガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
●防音性能を維持するため、建築壁内の防音処理およびドア枠と下地材のすき間への充填材（防音パテ・コーキング材・遮音シートなど:現場手配）の使用をお勧めします。
●標準・トイレドア　プライベート仕様(換気口なしタイプ)は、気密性を高めています。高気密高断熱住宅などへのご使用の場合は、別途建築壁部への換気ガラリ（現場手配）の取付けを行なうか、換気口付きタイプのご使用をお勧めします。
●ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
●施工時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマット等を使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
※扉を保管する際は下記の状況にあたる場所には置かないようにしてください。
　・直射日光の当たる場所
　・昼夜等で温度差の激しい場所
　・湿気の多い場所
扉のソリ・ねじれなどの原因となります。
※長期にわたる扉の立て置き保管はせずに寝かせた状態での保管としてください。扉のソリ・ねじれなどの原因となります。
　一時立て置き保管をする際は、下部気密材保護のため、ドア本体下部の下部ピースは取付けておいてください。
●本製品のみの使用では、防音効果はありません。必ず建築壁部(天井・壁床・窓・換気空調等)は防音性能を有する構成、構造としてください。

■部品・部材の明細

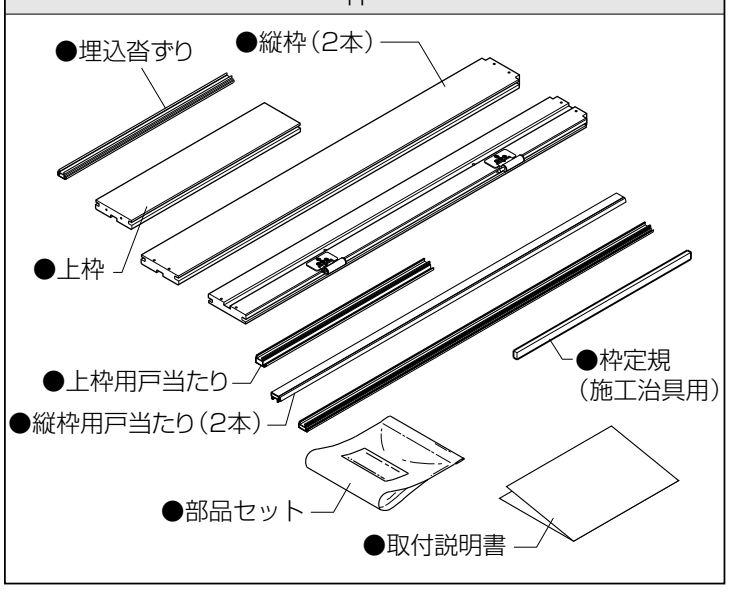
ドア本体



錠セット



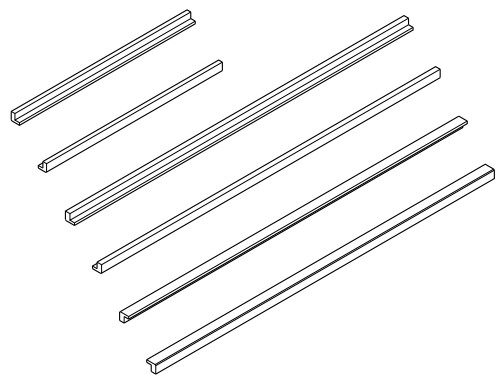
枠



■枠セット明細

	標準ドア プライベート仕様	トイレドア プライベート仕様
縦　枠	2	2
上　枠	1	1
戸当たり	縦2・上1	縦2・上1
埋込沓ずり	1	1
枠定規	1	1

ケーシングセット



■ケーシングセット明細

上用ケーシング	2
縦用ケーシング	4

■本体丁番ねじセット
（枠に同梱、丁番にテープ止め）

丁　番	2
本体取付けねじ（皿タッピンねじφ4×20）	8

■錠セット

ハンドルセット	1組
台座セット	1組
ハンドル固定ねじ（φ4×16）	1

■部品セット
標準ドア・トイレドア プライベート仕様用

組立て用皿ねじ M4×50	4
上枠取付け用DNビス（皿木ねじ） φ3.8×50	※7
縦枠取付け用なべタッピンねじ （φ4×40）	6
埋込沓ずり取付けねじ なべタッピンねじ（φ4×40）	3

※予備用4本含む。
●ドアストッパーセットは別売りです。

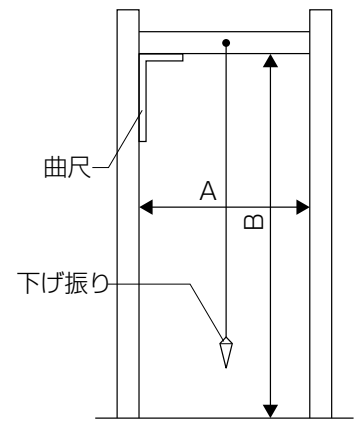
・室内ドア プライベート仕様枠セットは、埋込沓ずり使用の四方枠構成です。
必ず同梱の埋込沓ずりを使用してください。
・薄沓ずり納めはできません。床先張り（枠後付け）で納めてください。
（縦枠が埋込沓ずり納め寸法で設定しています。）
・沓ずりなし納めにされると防音性能が低下しますのでおすすめできません。
・縦枠の切断は不用です。

■開口部の作り方

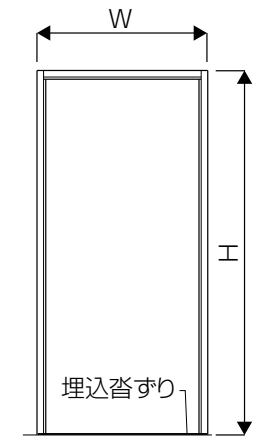
※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

開口寸法A	製品寸法W+5mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

●開口寸法



●製品寸法



■取付け範囲（単位:mm）

	薄壁用	厚壁用
対象壁厚	111～141	142～182

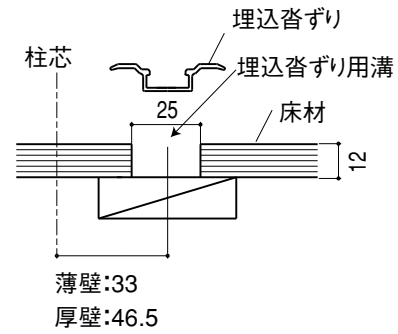
■取付け順序

1 床の施工

①製品寸法表から開口寸法を算出し、開口部を作成します。
②補強材を必ず入れ右図の位置に25mmあけて床材を張ります。
※躯体に縦枠を仮止めして位置出しをしてください。
躯体下部に位置出しスペーサー部品が付いています。
床開口の位置出しが容易にできます。
③床を施工します。

●製品寸法表（単位mm）

呼　称	標準ドア プライベート仕様		トイレドア プライベート仕様	
	H（DH）	W（DW）	H（DH）	W（DW）
0620	2023（1982.5）	734（678）	2023（1982.5）	648（592）
0720	2023（1982.5）	784（728）	—	—
0820	2023（1982.5）	824（768）	2023（1982.5）	824（768）
0920	2023（1982.5）	873（817）	2023（1982.5）	873（817）

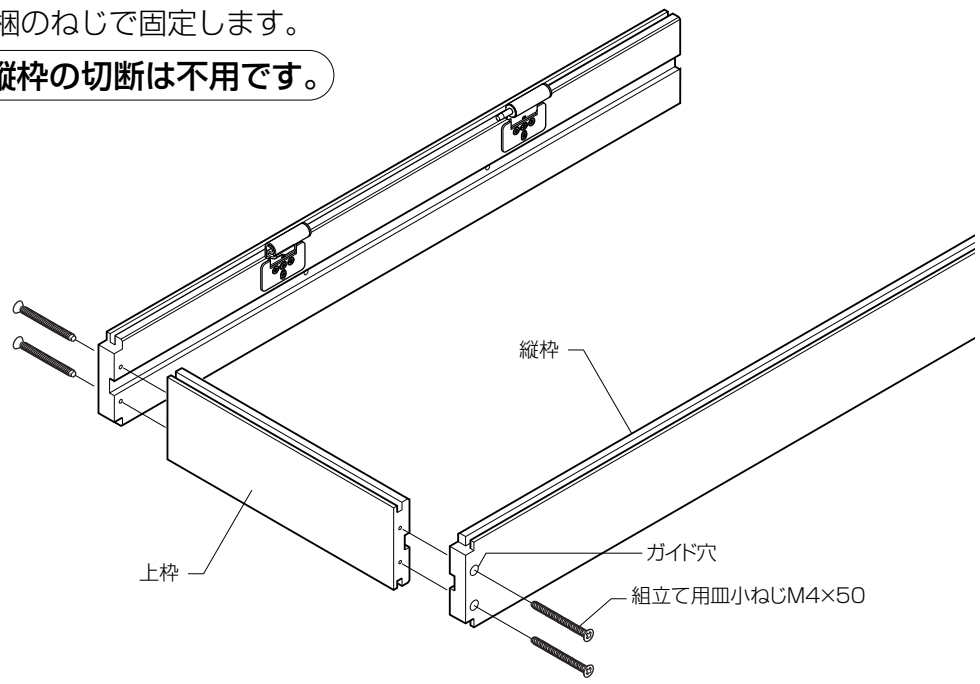


お願い
●埋込沓ずりの位置出しは、正確に行なってください。位置ずれして取付けた場合、防音性能が低下することがあります。

2 枠の組立て

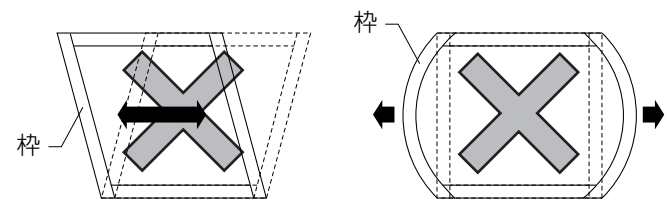
●下図のように各部材を組合わせ、
同梱のねじで固定します。

縦枠の切断は不用です。



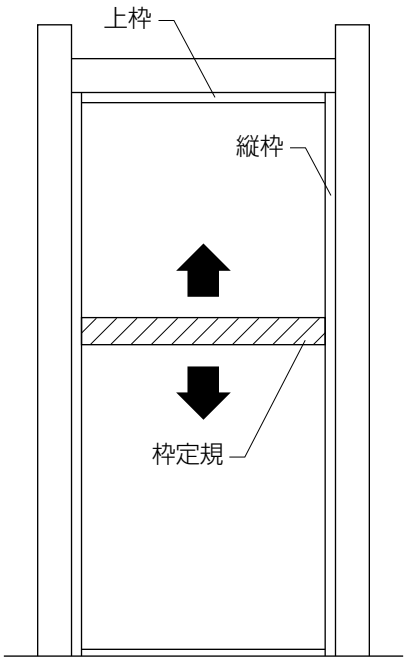
お願い
●組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。

お願い
●枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。
破損の原因になります。
●ねじは、たたき込まないようにしてください。
保持力低下の原因となります。

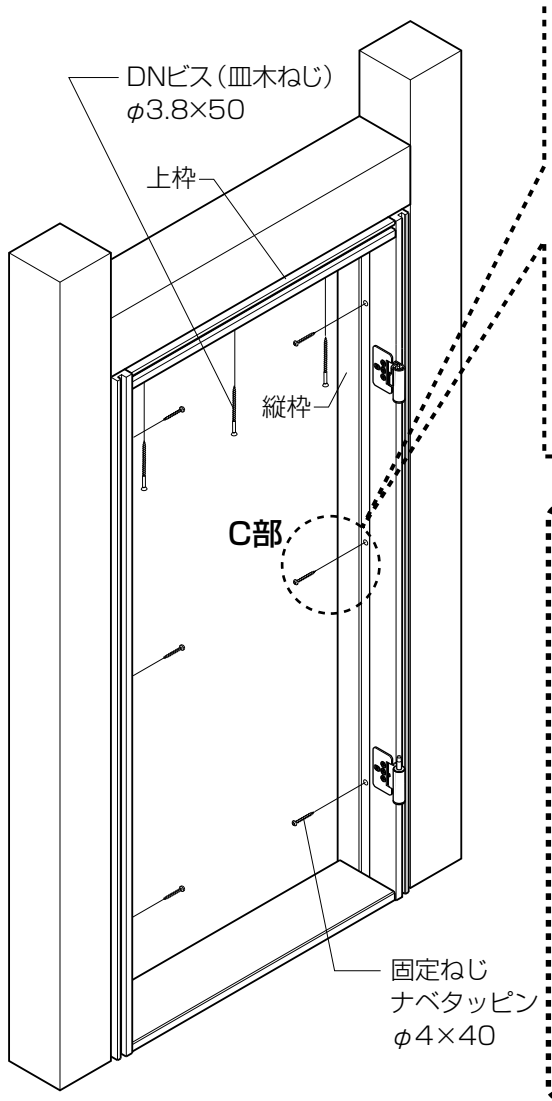


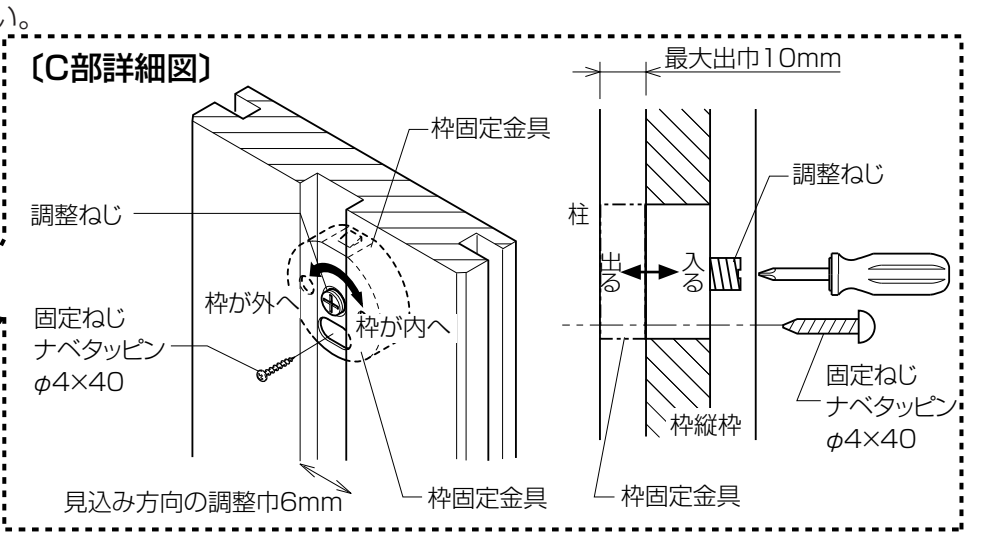
3 枠の取付け

①縦枠に取付られている枠固定金具（縦枠に3個取付け）の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。
②枠の垂直を確認してください。
③固定ねじ（なべタッピンねじφ4×40）を枠固定金具の長穴中央部分より締付けてください。
　ねじ固定（なべタッピンねじします。床先張り納めです。上枠・縦枠のみ固定します。
④枠の奥行、方向の倒れを確認して下さい。
　倒れている場合は、固定ねじをゆるめ、枠を動かします。（奥行方向の調整幅は6mmです。）
　調整後、ねじを固定してください。
⑤枠定規をあてて、開口寸法（W方向）を確認してください。
　ゆるい場合は、反時計回りに回し、きつい場合は、反時計回りに回して枠を調整してください。
　左右の調整範囲は片側で10mmです。
⑥再度、枠の垂直を確認してください。
⑦上枠は、かい木を入れてDNビス（皿木ねじ）φ3.8×50固定してください。

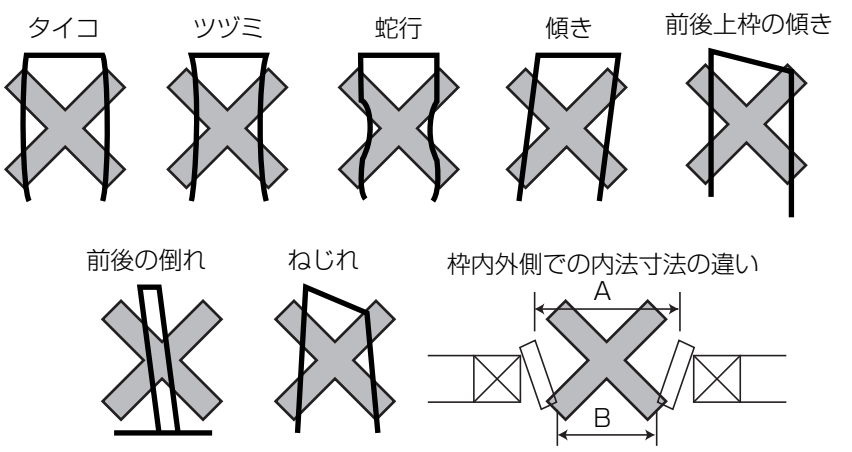


●枠の水平・垂直等建付を確認してから取付けてください。防音性能の低下や開閉不具合の原因となります。





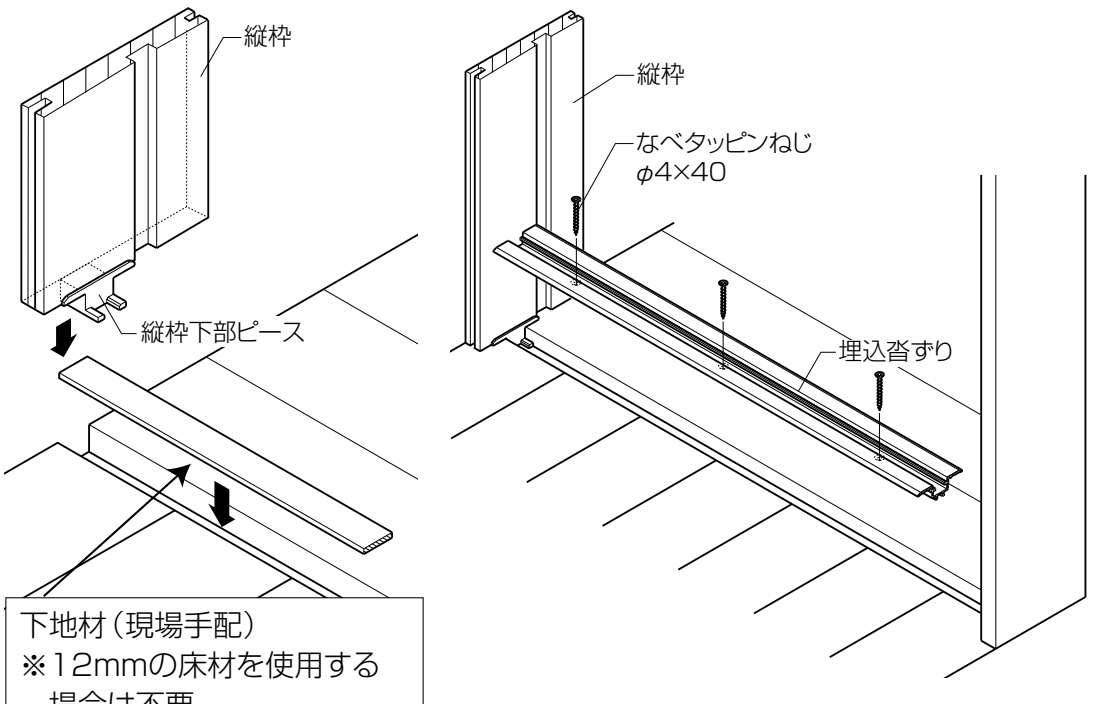
お願い
●必ず水平・垂直の建付確認をしてください。タイコ、ツヅミ、蛇行、傾き、倒れ、ねじれなどがないか確認してください。



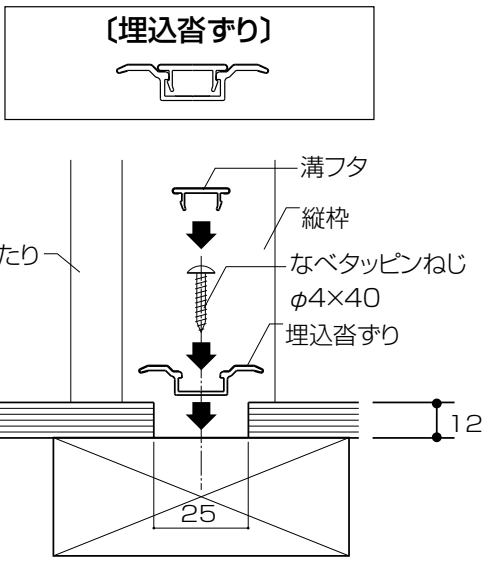
お願い
●枠固定金具の調整には、電動ドライバーを使用しないでください。
●必ず内装ボードは縦枠につきあてて施工してください。つきあてが出来ない場合は必ずかい木を入れてください。

4 埋込沓ずりの取付け

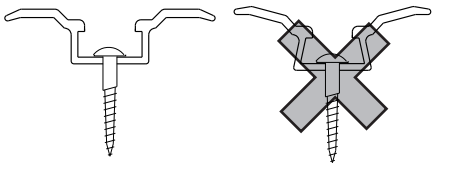
①（15mmの床材を使用する場合）下地調整材（3mm厚:現場手配）を床の開口部に取付けてください。
②縦枠下部ピースの足に埋込沓ずりをしっかりとはめ込んでからねじ止めしてください。
　埋込沓ずりの浮き上がりや扉開閉不具合の原因となります。
③溝フタをはめ込みます。



下地材（現場手配）
※12mmの床材を使用する場合は不要



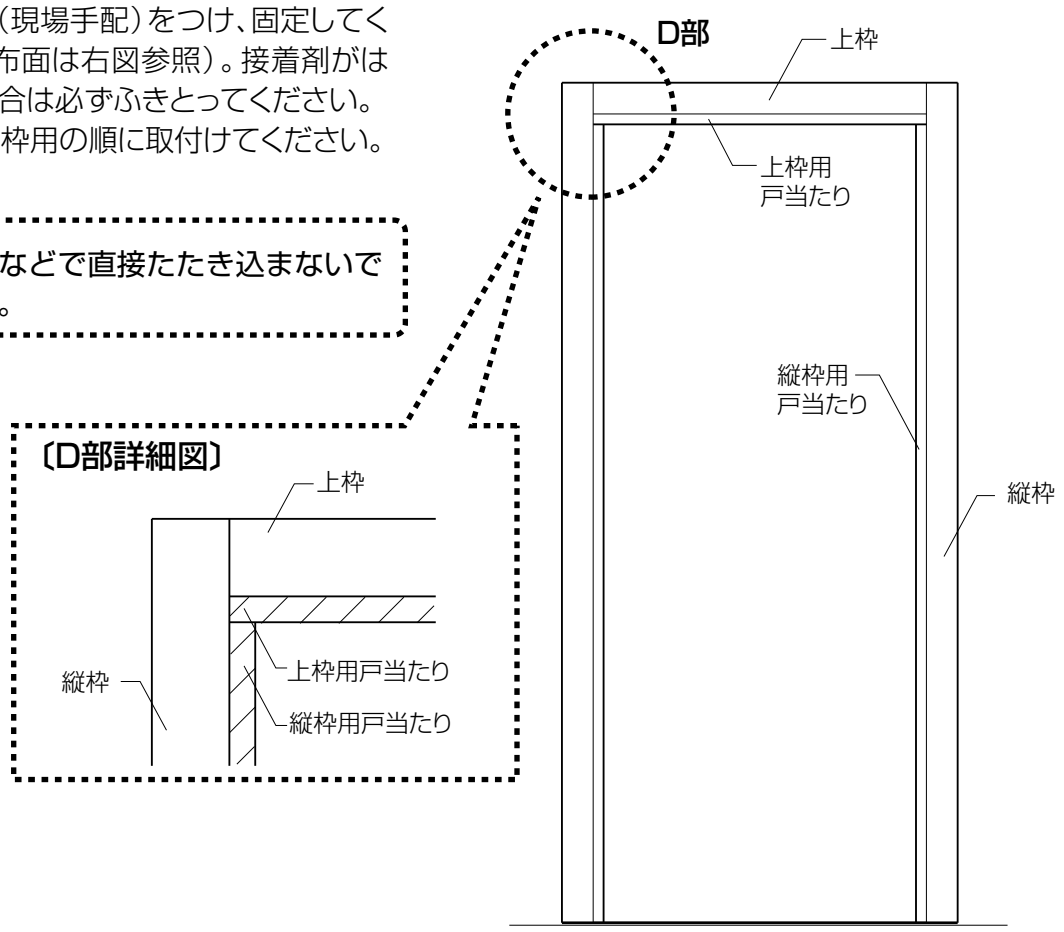
お願い
●埋込沓ずりを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。埋込沓ずりが変形し溝フタが閉まらなかったり埋込沓ずりと床材のすき間などの原因となります。

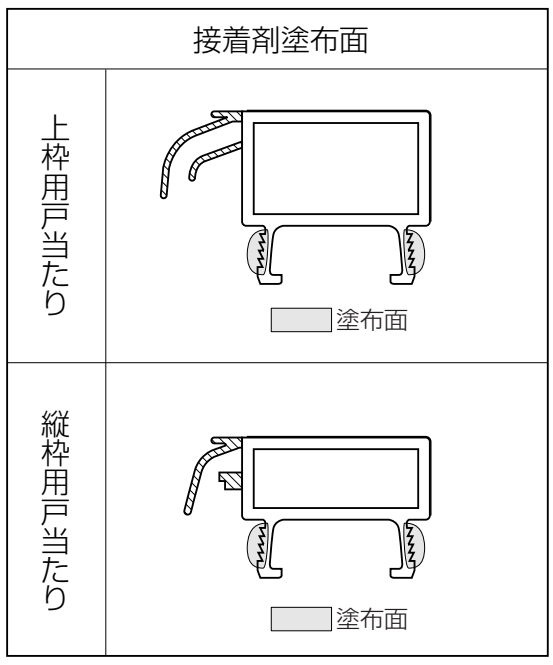


戸当たりの取付け

①現場で縦枠用戸当たりの寸法を合わせて切断してください。
（戸当たりの端部には加工が施してありますので、ラベルの貼付けてある側を切断してください。）
②戸当たりの足の外側（リブのある面）に木工用ボンド（現場手配）をつけ、固定してください（塗布面は右図参照）。接着剤がはみ出した場合は必ずふきとってください。
※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。

お願い
●ハンマーなどで直接たたき込まないでください。





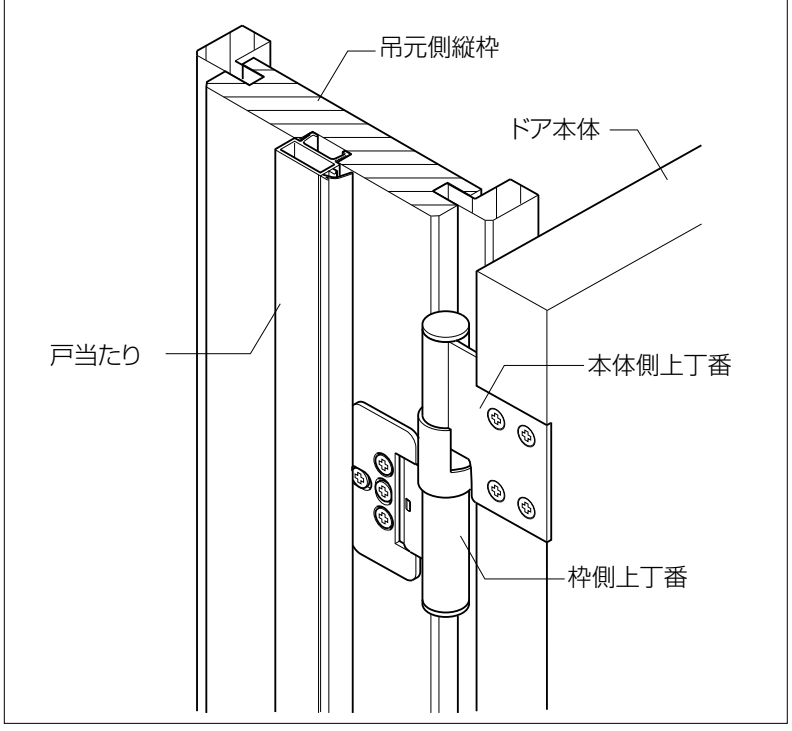
5 下地材と枠のすき間の充填

①下地材と枠のすき間は、音漏れにより、防音性能に影響が出る場合がありますのですき間への充填材（防音パテ、コーキング、遮音シート等:現場手配）の使用をお勧めします。

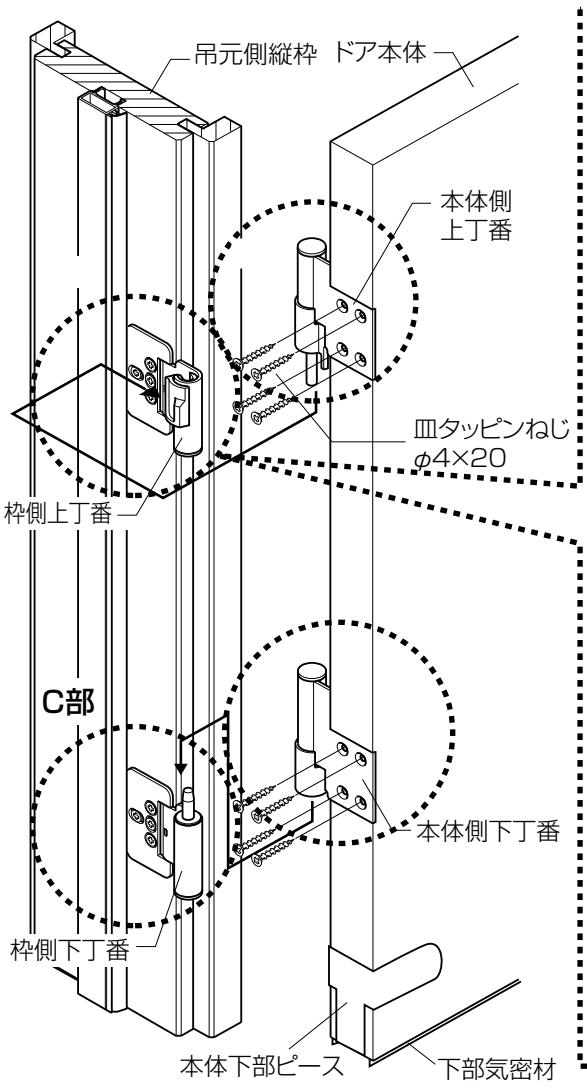
6 ドア本体の取付け

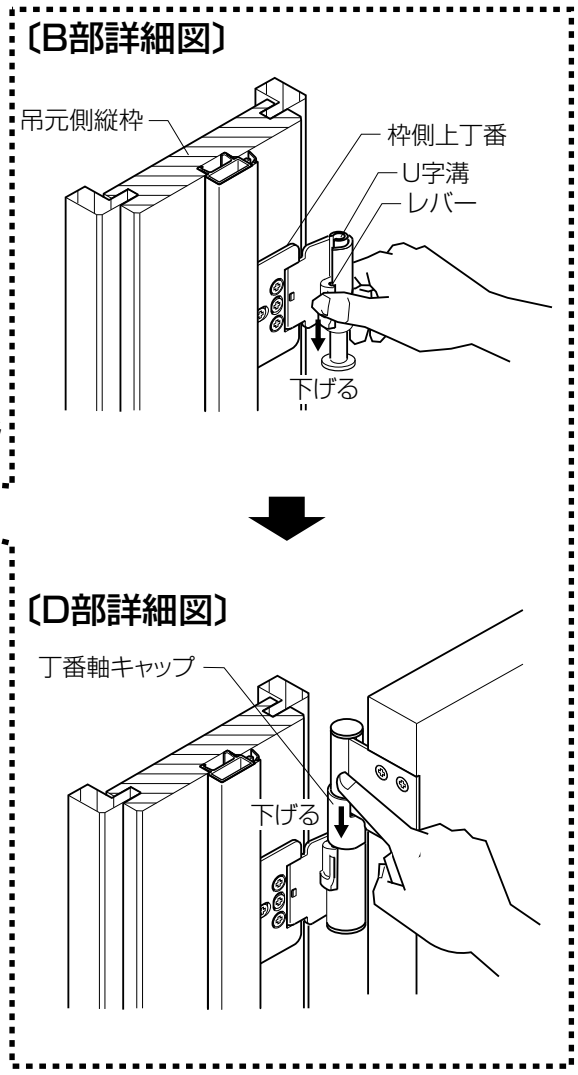
①ドア本体に本体側丁番を皿タッピンねじφ4×20（枠側丁番にテープ止め）で取付けます（A・A'部）
※ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、ドア本体の上下を確認してください。
②枠側上丁番のレバーを止まるまで下げます。（B部）
※枠側上丁番の下部から軸が出てきます。
※レバーが動かなくなるまでしっかりと下げてください。
③本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。（C部）
④本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。
※扉側丁番の軸が枠側丁番に入ると自動でレバーが上がります。
※「カチャリ」とレバーが上がり、とび出していた軸が丁番に入り込んだことを確認してください。
⑤丁番軸キャップを手で下げてください。（D部）
※パチンとはまるまで確実に下げてください。
⑥本体下部ピースを取外してから、扉を閉めてください。

■取付け完成図



※本体を保管する際は下記の状況にあたる場所には置かないでください。
・直射日光の当たる場所
・昼夜などで温度差の激しい場所
・湿気の多い場所　本体のソリ・ねじれなどの原因になります。
※長期にわたる本体の立て置き保管はせずに寝かせた状態での保管としてください。
本体のソリ・ねじれなどの原因となります。
一時立て置き保管をする際は、下部気密材保護のため、ドア本体下部の下部ピースは取付けておいてください。



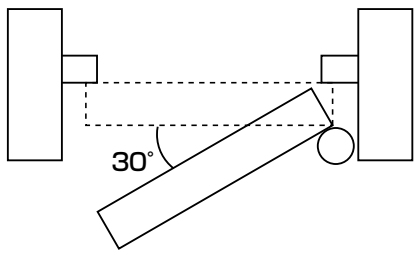


⚠ 注　意

- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります
- 本体を吊込んだ後、枠側上丁番のレバーが上がっていることを確認してください。レバーが上端まで上がっていないと、本体が脱落するおそれがあります。

お願い

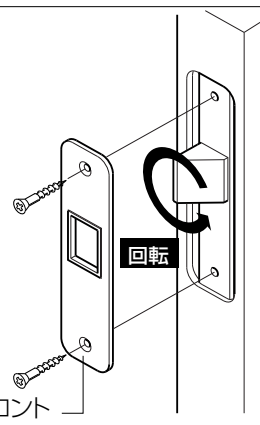
- 本製品は防音性能をあげるため、本体自体が開閉時に3mm上下します。そのため本体が0～30°の範囲内においては扉が自動的に閉まりますので、ご注意ください。
  他材との接触などにより建具破損の原因となります。

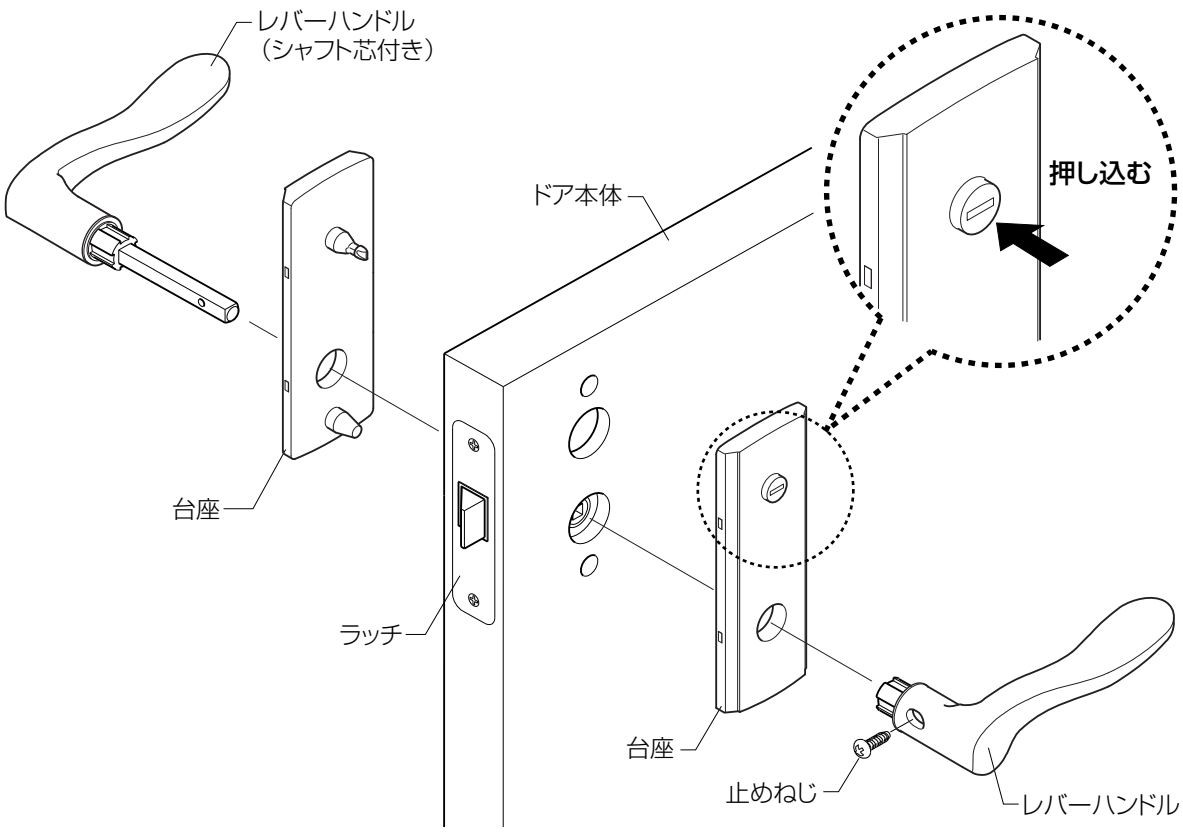


7 把手の取付け

①台座の上部の固定部品の溝が横になっていることを確認してください。
（縦になっている場合は横向きにしてください。）
②本体の加工穴に合わせて台座を合わせてください。
③固定部品を「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
④レバーハンドルを両側から差込み、レバーハンドルが軽く回転することを確認してから、ねじで固定してください。
（ハンドルねじ固定部は、長穴になっていますので両側より押しつけて、ねじで固定してください。）

※箱状のラッチは、右吊元の向きになっています。左吊元として使用する場合は、フロントを外し、ラッチを180°回転させた後、フロントを付け直してください。





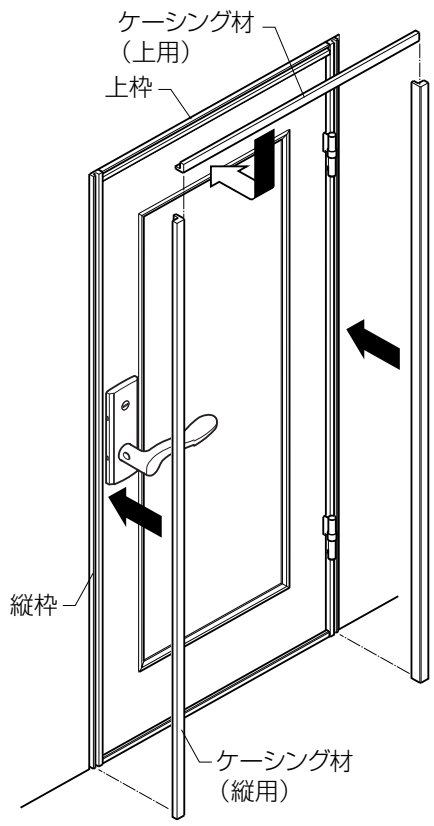
※把手の取外し方法

①レバーハンドルの固定ねじを外し、レバーハンドルを外します。
②固定部品をマイナスドライバーで90°方向に回転させると台座が外せます。
③再度取付けるときは、固定部品をコイン等で元の状態にしてから取付けを行ってください。

8 ケーシング材の取付け

※壁材・床材を仕上げてからケーシング材を取付けてください。

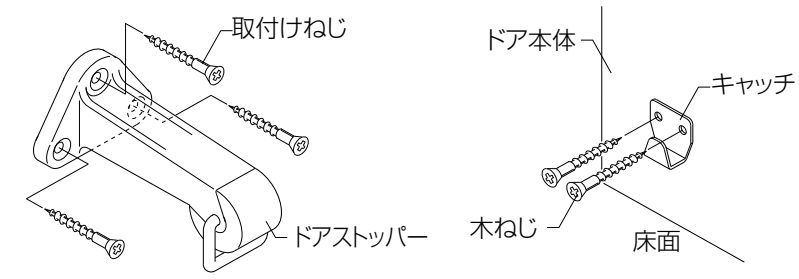
①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。（上ケーシング枠に合わせてあらかじめカットしてあります。）
②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
③ケーシング溝とケーシング材裏面に木工用ボンド(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



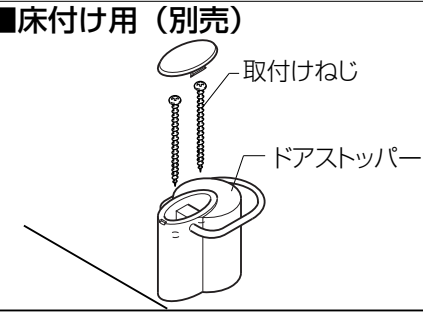
9 ドアストッパーの取付け

■床・壁付け用(別売り)

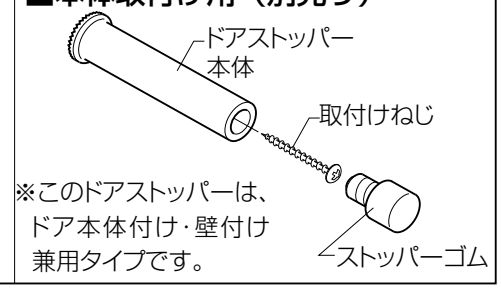
※このドアストッパーは、床付け、壁付けタイプ兼用です。



■床付け用（別売）

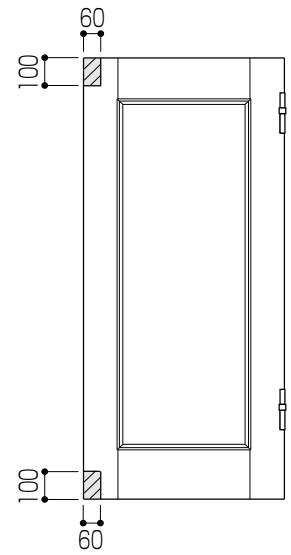


■本体取付け用（別売り）



※このドアストッパーは、ドア本体付け･壁付け兼用タイプです。

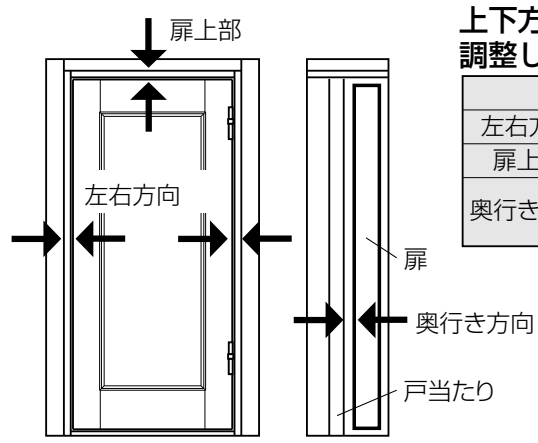
■本体取付け用ドアストッパーおよび、キャッチの取付け範囲



※左図の斜線範囲内にドアストッパー本体または、キャッチを取付けてください。
※壁付け･床付け戸当たりは、キャッチの位置に合わせ、壁または床に取付けてください。

■建付け調整

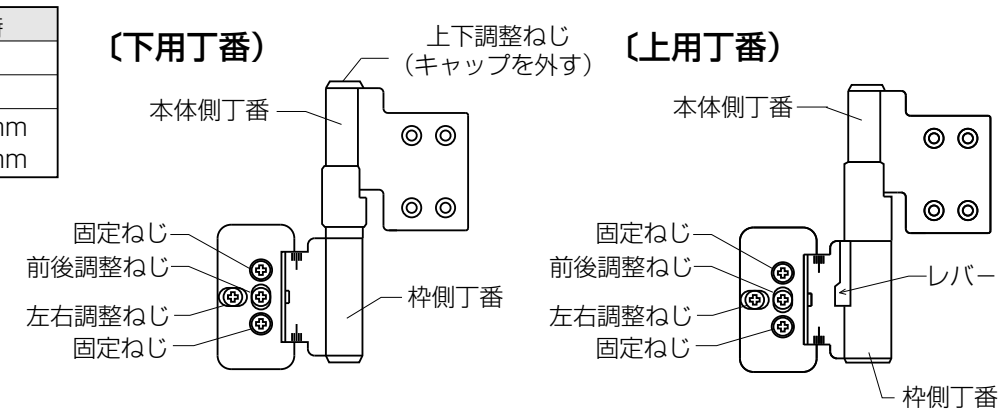
■標準設定位置



上下方向のチリは、本体上部チリを基準に調整してください。

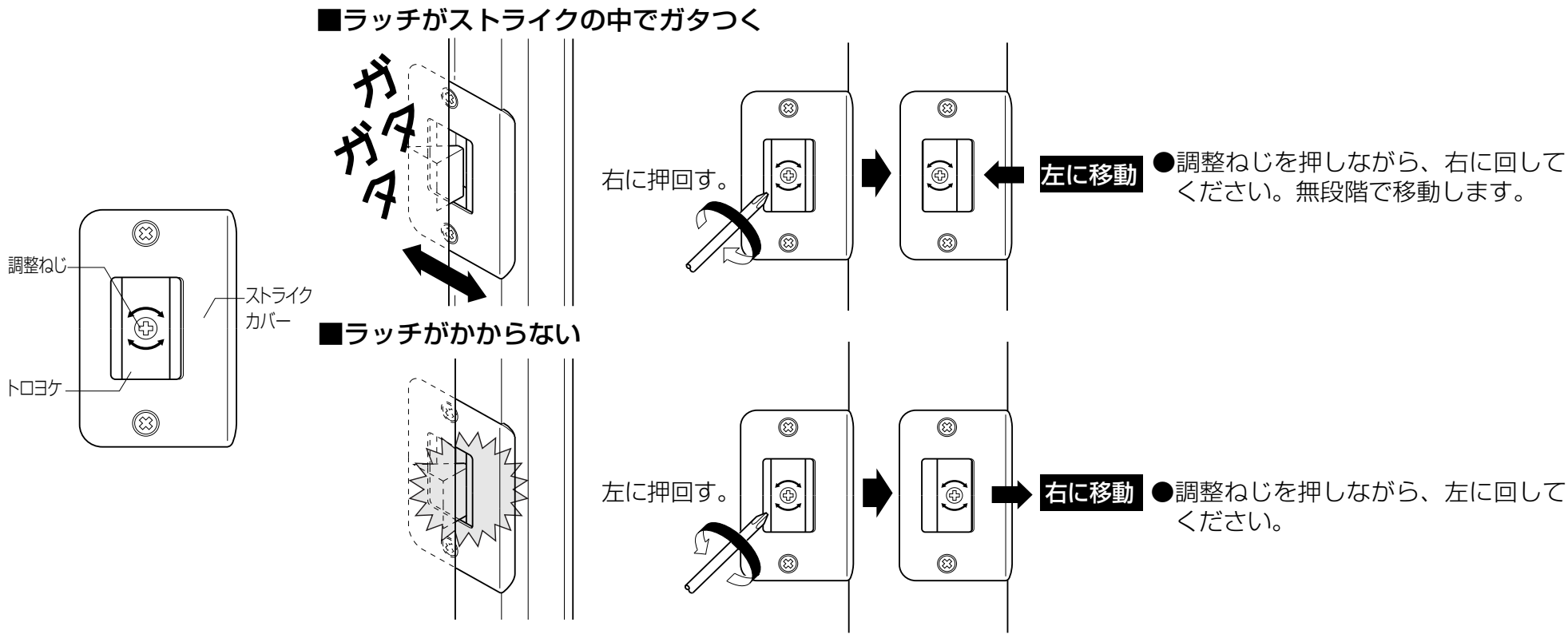
	開いた時	閉めた時
左右方向	—	4mm
扉上部	4mm	7mm
奥行き方向	—	戸先側 4mm 丁番側 5mm

■三次元丁番
（図は、右吊り用丁番を示す）



■建付け調整（ストライクによる調整）

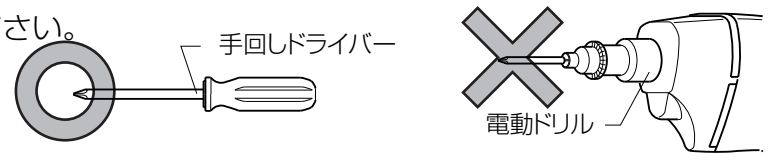
■ラッチがストライクの中でガタつく



■ラッチがかからない

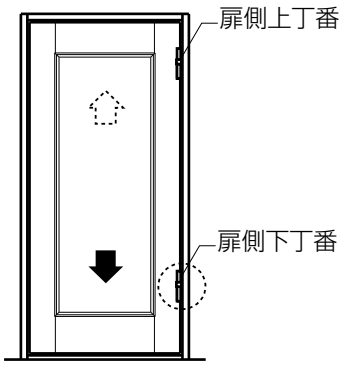
■建付け調整（丁番による調整）

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
※電動ドライバーは、使用しないでください。
　ねじ頭が壊れるおそれがあります。



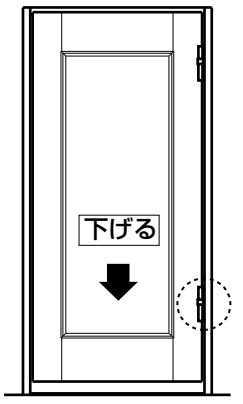
上下の調整

●扉側下丁番で調整します。
●調整幅は、
　上(4mm)、
　下(5mm)です。



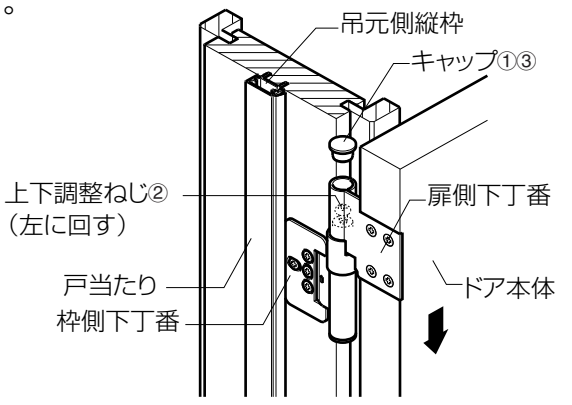
不具合例

●ドアの上部が枠に当たる
●音が下部から漏れている



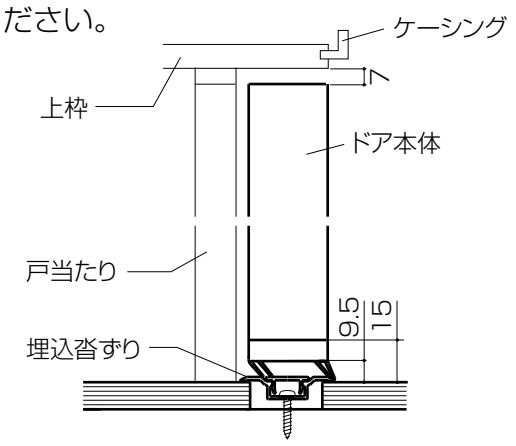
調整方法

①本体側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。



標準設定位置

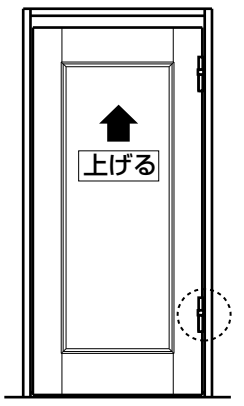
●本体を閉めたとき、下の納まりとなるように上下の調整をしてください。



※下部気密材の埋込沓ずりへの当たり方を確認して必要なら調整してください

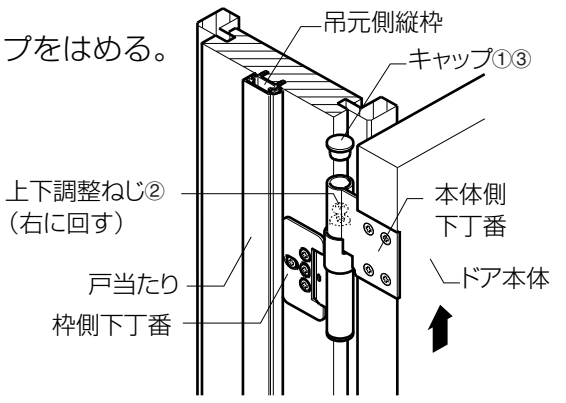
不具合例

●ドアの開閉が重い



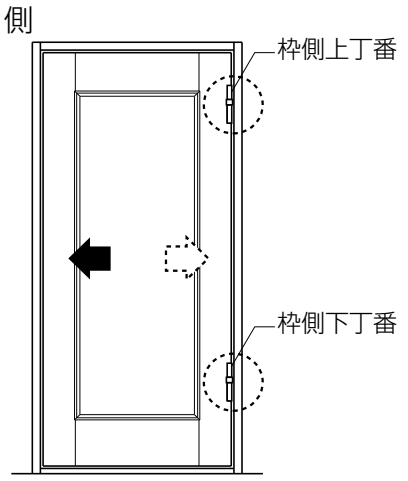
調整方法

①本体側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
③キャップをはめる。



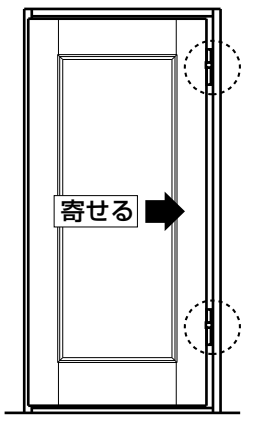
左右の調整

●枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
●調整幅は、吊元側（1.5mm）、開き側（2.5mm）です。



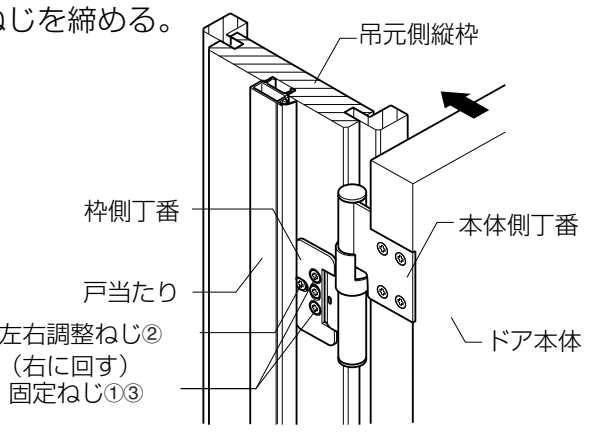
不具合例

●ドアの開き側が枠に当たる



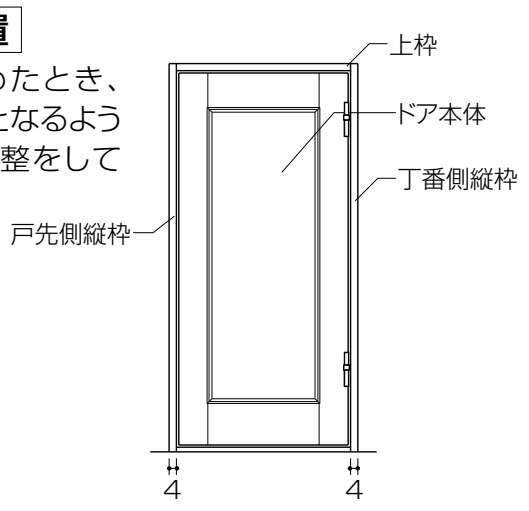
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



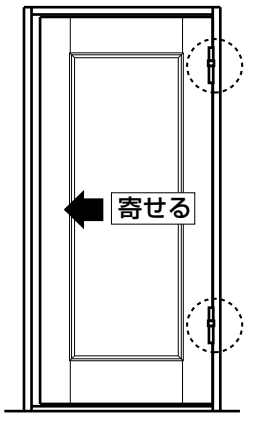
標準設定位置

●本体を閉めたとき、右の納まりとなるように左右の調整をしてください



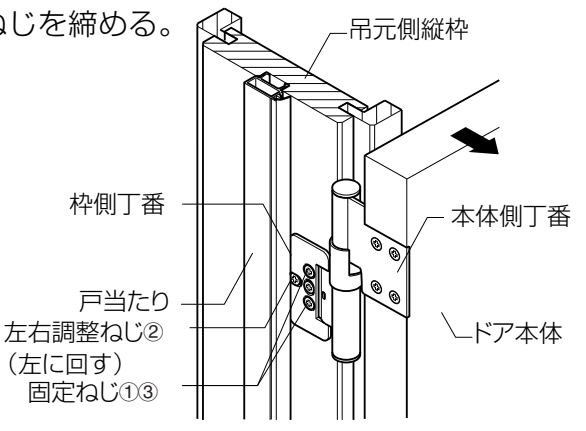
不具合例

●ドアの開き側のすき間が大きすぎる



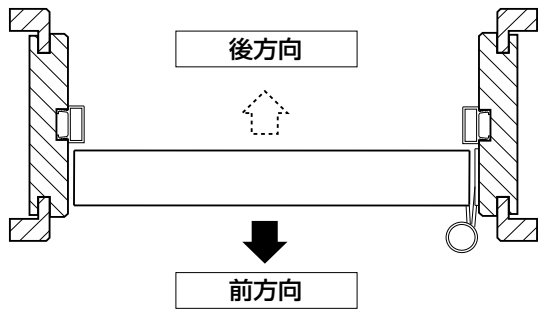
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



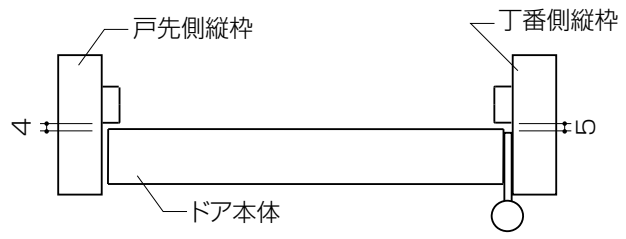
前後の調整

●枠側上丁番及び枠側下丁番の両方で調整します。



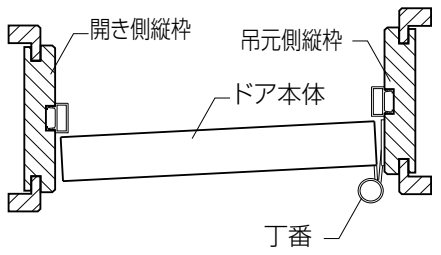
標準設定位置

●本体を閉めた時、下の納まりとなるように前後の調整をしてください



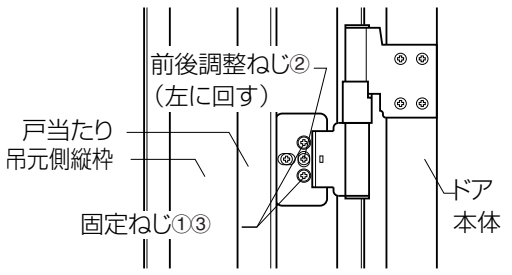
不具合例

1.開き側の枠が前に出ている。



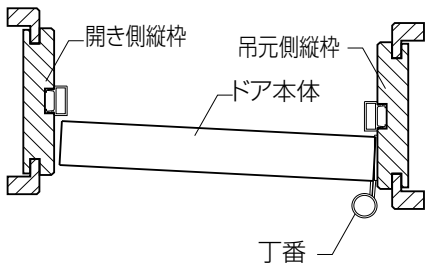
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
③固定ねじを締める。



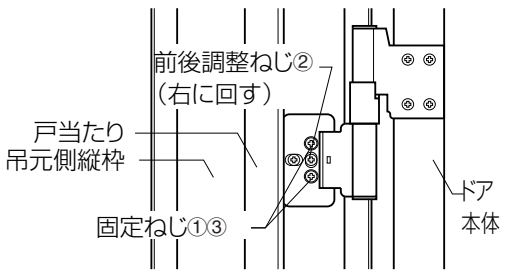
不具合例

2.吊元側の枠が前に出ている。



調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
③固定ねじを締める。



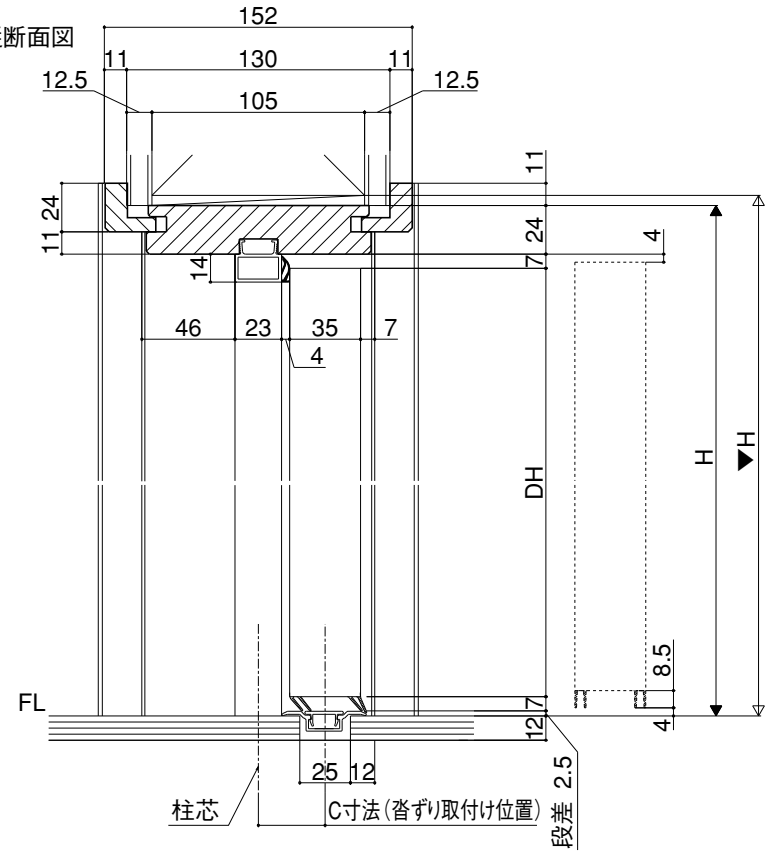
お願い

●枠と本体の位置が標準設定になるように調整してください。
　本体開閉の不具合や防音性能の低下の原因となります。
※調整完了後、ドア本体を開閉して下記事項を点検してください。
　(異常があった場合、再度調整してください。)
●戸当たりと枠の間にすき間がなく、戸当たり受けに安全にはまっているか。
●枠側上丁番のレバーが上まで上がっているか。
●ドア本体が枠にぶつからないか。
　(ドア下端の下部気密材密着は適切か)
●ドア本体のラッチが、ストライクから外れないか。
●ドア本体のラッチが、ストライクの中でガタつかないか。

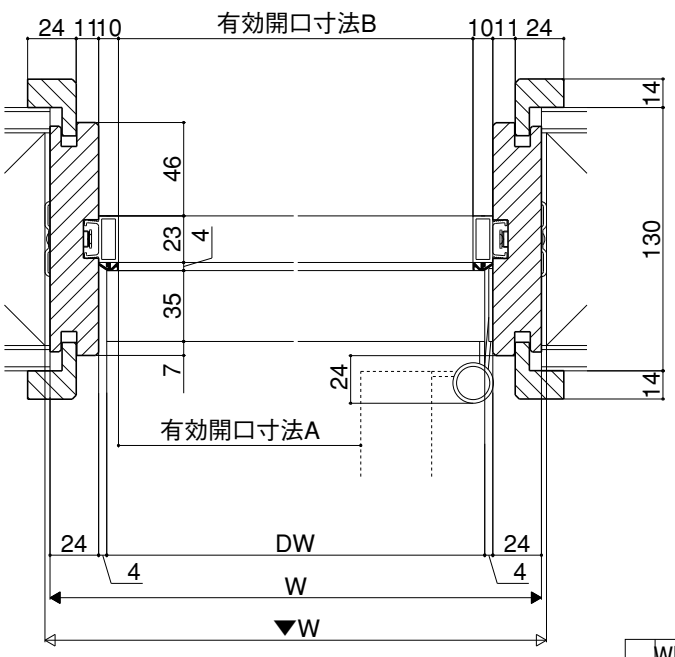
■納まり図

プライベート仕様　標準/トイレドアユニット　ケーシング付

縦断面図



横断面図



	W呼称（枠外寸法）	A寸法	B寸法
標準ドア	W06（734）	611	666
	W065（754）	631	68
	W07（784）	661	716
	W08（824）	701	756
	W09（873）	750	805
トイレドア	W06（648）	525	580
	W08（824）	701	756
	W09（873）	750	805

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。